

伊勢物語 初冠

昔、男、初冠して、奈良の京春日の里に知るよしして狩
 りに住にけり。その里にいとなまめいたる女はらから
 住みけり。この男垣間見てけり。思ほえず古里に、いと
 はしたなくてありければ、心地まどいにけり。男の着
 たりける狩衣の裾を切りて歌を書きてやる。その男、
 しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。
 春日野の若紫のすり衣 しのぶの乱れ限り知られず

となむおひつきていひやりける。次いで面白きことと
もやと思ひけむ。

みちのくのしのぶもぢずりたれゆゑに 乱れ初めにし

我ならなくに

という歌の心ばへなり。昔人は、かくいちはやき雅をな
むしける。